

心と人と未来をつなぐ 「高知家」の教育

～次期高知県教育振興基本計画の策定に向けて～

はじめに

「一人一人がなりたいたい自分や目標をもとに、必要な勉強を自分で選択でき、実践的に学びたいです。」「理想的な学校は、『生徒の声を柔軟に取り入れる学校』。今の学校は、意見を出しても聞き流されてしまう。生徒と先生が時間をかけて話し合う機会を設けるべきです。」

令和5年7月に初めて開催された、県内の高校・特別支援学校に通う生徒5名の委員からなる「次世代総合教育会議」の場で、県知事や県教育長を前にして発せられた教育を受ける当事者の「声」です。

我々はその「声」に応えられる十分な取組を進めることができたのでしょうか。

その「声」を未来につなげるのできる実効性のある次期高知県教育振興基本計画を策定しなくてはならないと、身の引き締まる思いになりました。

1. これまでの取組

高知県教育委員会では、第3期高知県教育振興基本計画（期間：令和2～5年度）において、「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち」「郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材」を基本理念（目指すべき人間像）として掲げ、「知」「徳」「体」の基本目標の達成に向け、「チーム学校の推進」や「厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実」など6つの基本方針、「不登校への総合的な対応」「学校における働き方改革の推進」の2つの横断的取組に沿って、施策を推進してきました。

そして、今年度、現行の教育振興基本計画の最終年度を迎え、次期基本計画策定に向けて、これまでの取組

を検証するとともに、各関係者との対話により、本県の教育や「理想の学校の姿」等について協議を重ね、真に実効性のある次期基本計画になるよう、取組を進めています。



現行の第3期高知県教育振興基本計画

2. 「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」の観点に沿った取組

それでは、本県の特色ある取組について、県政の重点的な取組の方向性として定めている「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」の観点に沿って、一部紹介します。

(1) デジタル技術を活用した教育の充実

① 学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」の活用促進

本県では、県内の全公立学校の児童生徒・教職員一人一人に、同一ドメインのアカウントを発行しています。その結果として、小学校入学時から高校卒業まで同じアカウントで運用するため、学習データの連続性が確保されています。また、こうした環境を生かして、高知県独自の学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」を令和3年度から運用しています。

「高知家まなびばこ」の機能は、大きく以下の3つです。

○ 「児童生徒が自ら選ぶ、学ぶ、進む」

デジタル教材や学習支援動画を学年別・教科別に掲載しています。小・中・高の校種を一つのページにまとめることで、「学びを振り返りたい」「先に進んでみたい」といった児童生徒のニーズに応えることができる構成となっています。

○ 「教員が教材を選べる、使える」

教職員のみがアクセスできる共有フォルダに教材を格納し、学習の進度に合わせて教員がこれらの教材を選んで使用できるようになっています。

○ 「『気持ち』に気づく」

児童生徒がその日の気持ちや体調を入力すると、教職員が速やかに把握することができ、早期の対応等につなげることができる「きもちメーター」を運用しています。過去の入力履歴を確認できることから、児童生徒の気持ちの変化等に気づく効果的なツールとして活用されています。なお、昨年度、自由記述欄において、事前に登録した気になる用語を児童生徒が記載した場合に、アラートを出す機能等を追加しましたが、これはいただいた現場の「声」を参考に導入したものです。

今後は、この「高知家まなびばこ」において、高知県版の学力調査やデジタルドリルの学習結果等のスタディ・ログ(学習履歴)を集約し、全教員や児童生徒にフィードバックすることで、学習指導の充実や主体的・自主的な学習を促進する仕組みの構築も予定しています。また、新たに保護者にも同一ドメインのアカウントを発行し「高知家まなびばこ」にアクセスできるようにすることで、保護者への情報提供を充実させていきます。さらには、学校・教職員から保護者への連絡業務の負担軽減につながる機能拡充等を進めていく計画です。



学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」

② 遠隔教育システムを活用した支援の充実

中山間地域の小規模高等学校等が多い本県では、学

校や地域の違いが教育機会の差につながらないように、生徒の多様な進路希望を実現するために、遠隔教育システムを活用した遠隔授業や補習を積極的に実施しています。配信方法としては、県教育センター内にある「遠隔授業配信センター」(近隣の高校の分室)から配信する「配信拠点型」という方法と、A高校からB高校に授業を配信する「学校相互型」を実施しています。「遠隔授業配信センター」を拠点として授業等を配信する方式は、全国から見ても本県が先んじて取り入れたものです。

○ 令和元年度：補習配信スタート

○ 令和2年度：単位認定を伴う遠隔授業開始

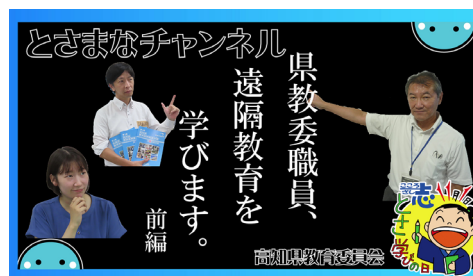
○ 今年度：16校の小規模高校等に対して配信

他にも生徒や学校のニーズに沿って、遠隔システムを活用し、大学入試対策や公務員試験、各種資格試験等の補習や色々な分野で活躍されている本県出身の方によるキャリア教育講演会なども行っています。

さらには、遠隔教育システムを活用して、小規模中学校の免許外指導担当教員への支援に取り組むとともに、児童の協働的な学びを充実させるため、小学校複式学級における遠隔授業に関する研究も進めており、これからは課題やニーズに応じた新たな取組を展開できる手法として、本システムの活用を積極的に進めていきたいと考えています。



遠隔授業の様子



「遠隔教育」をドラマ形式で紹介する動画



前編



後編

(2) 学びをつなげる環境教育の推進

最近、テレビドラマのモデルともなって話題となった植物学者の牧野富太郎博士を輩出した本県は、森林率全国1位の森林資源をはじめとする豊富な自然資源を有しています。そのような本県の特徴も生かして、持続可能な社会の創り手となる子どもたちの資質・能力を育成するため、就学前・小・中・高等学校等において体系的な環境教育を推進するとともに、環境教育に係る教員の指導力の向上や学習機会の充実を図っています。また、身近にある豊かな自然資源を活用して、体験を中心とした森林環境教育を推進することのできる人材（森林活用指導者）を育成しています。



本県の特徴を生かした環境学習（仁淀川）



森林活用指導者を活用した森林環境学習（梶原町）

(3) 高知県版グローバル教育の推進

本県では、「郷土を愛し、その発展に貢献できる人材や、高い志を持ち高知から世界へチャレンジするグローバル人材」の育成を図るため、推進校を中心に、探究型学習と英語教育を組み合わせたグローバル教育を推進してい

ます。特に、県立高知国際中・高等学校においては、「国際バカロレア」の取組を実践し、これらの手法や取組成果を県内の学校に普及させるとともに、国際交流を含む多様な価値観に触れる活動を推進することなどを通して、広くグローバル教育の推進を図っています。（高知国際中・高等学校は、国際バカロレアのMYP〔中学校段階のプログラム〕認定を令和2年度に、DP〔高等学校段階のプログラム〕認定を令和3年度に受けています。）



1人1台タブレット端末を活用した国際交流

3. 次期基本計画策定に向けて

現行の教育振興基本計画が最終年度となる今年度、これまでの取組の成果や課題をしっかりと検証することはもとより、昨今の生成AIの発展や「ウェルビーイング（Well-being）」という考え方への注目の高まりなどのさまざまな社会情勢の動向等も踏まえながら、今後の本県の教育の在り方を示す次期基本計画を検討していかなければなりません。今回、次期基本計画を策定するうえで、新しい試みとして、様々な関係者の方と「対話」をしたり、「声」をお聴きしたりするという過程を意識しています。その関係者との「対話」や「声」をお聴きする取組として、今年度実施した高校生5名の委員による「次世代総合教育会議」と「若者の『声』募集」の取組をご紹介します。

(1) 次世代総合教育会議

ご案内の通り、現在、様々なルール決定や取組の決定・運用にあたっての子ども意見表明・参加の場の確保を促進する動きが展開されています。国の第4期教育振興基本計画の策定過程においても、子ども・若者から意見を聴くことなどを通して、より多角的な視点からの検討が

行われたと、今年3月の高知県総合教育会議にお越しいただいた文部科学省の教育企画調整官からもご説明をいただいたことで、本県においてもより具体的な動きとなり、会議開催の運びとなっていきました。

このような流れを受け、次期教育大綱・次期基本計画の議論にあたって、「教育の当事者」として代表的な存在である生徒（高校生）から、教育の在り方等についてご意見をお伺いする場を設定することとしました。委員の選出については、県立・私立の校長会等のご意見も伺いながら、県内の高等学校等の縮図となるよう、学校数の比率も踏まえて、普通科、専門系、中山間地域の県立高校の3名、県立特別支援学校高等部の1名、私立高校の1名という委員メンバーとしました。

5名の委員とは、およそ3ヶ月間、県教委職員との事前の打ち合わせやオンライン交流会、学校訪問による中間発表等を重ね、「はじめに」にも記したように、今年7月に、県知事、県教育長及び教育委員参加のもと、「次世代総合教育会議」を開催しました。

その場で、委員より挙げられた「声」は、「もっと主体的に学習がしたい!」「自分たちの意見や考えを伝える場がほしい!」ということでした。

県知事からは、「今後の方向性として高校生の委員からご示唆いただいたことについて、しっかりと受け止めて次の教育大綱に反映をさせていきたい。こうした形で話し合いの場が持てたことは大変貴重だし、うれしいひと時であった。今後も対話を続けていきたい。」という高校生へのメッセージもあり、今後も関係者と対話をすることを大事にしていくことが確認されました。この「次世代総合教育会議」は、次年度以降も開催し、教育の当事者の「声」をお聴きして、教育施策に反映するとともに、その「声」を紹介していきたいと考えています。



次世代総合教育会議



紹介動画



会議資料

(2) 若者の「声」募集

さらに、県内の高等学校・特別支援学校高等部に在学している生徒や、県内に在住している16～18歳までの若者から、高知県の教育や学校に対する「声」を本年度5～6月に募集しました。

「今の教育や学校は、ここがいい。ここは変えてほしい。」「学校等ではこういうことを勉強してみたい。こういうことを活動したい。」などといった、生徒や若者の経験や考えなどをもとにした意見や提案を301件いただきました。その「声」は、会議や広報誌等で紹介され、行政や学校、そして教職員一人一人と様々な主体において、これまでの教育や学校の在り方を振り返り、今後の施策を検討するための大事な資料となっています。

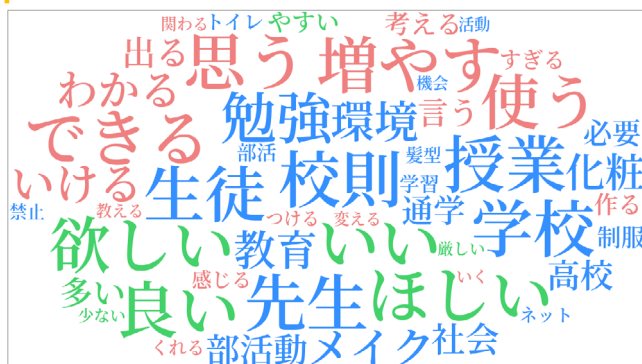


若者の「声」資料

高知県の教育・学校についての若者の「声」

いただいた「声」テキストマイニング(※)で分析してみました。

(※) テキストマイニング: 多くの文章から、例えば、それぞれの単語等の出現頻度や相関関係などを集計・分析する方法



※ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

その他にも、教職員や大学生、各関係団体との対話の場を設定し、学校や教育についての貴重なご意見をお聴きすることができました。いただいた「声」については、次期基本計画の内容に反映すべく策定作業を進めています。

<「対話」を実施した関係者・当事者>

- ✓ 高等学校・特別支援学校高等部に通っている生徒などの若者
- ✓ 若年・中堅の教職員
- ✓ 教職を目指す大学生
- ✓ 市町村教育長
- ✓ 就学前教育・保育関係者
- ✓ 小中学校、県立学校の校長
- ✓ PTA関係者
- ✓ 社会教育委員



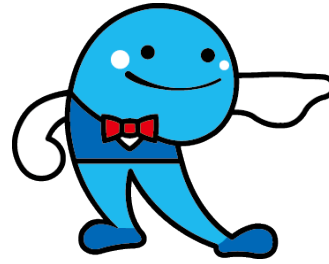
現在の次期基本計画の策定状況は、下の会議資料からご覧ください。



高知県総合教育会議



高知県教育振興基本計画推進会議



とさまなチャンネル

今後も、高知県教育振興基本計画で定める基本理念の実現に向けて、「心と人と未来をつなぐ『高知家』の教育」を推進していきます。

おわりに ～「とさまなチャンネル」で情報発信!～

高知県教育委員会事務局では、県民の方をはじめ、多くの方々に親しみをもってもらえるような本県の教育に係る広報コンテンツを、誰でも気軽に、いつでもご覧いただけるように、今年6月にYouTubeチャンネル「とさまなチャンネル」を開設しました。

様々な状況が急速に変化をし、将来の予測が困難になっている現在において、社会に羽ばたく子どもたちが必要な力を身に付けるためにも、「教育」の役割は非常に重要です。「とさまなチャンネル」では、その「教育」の役割を県民の皆様等にご理解いただけるよう、「分かりやすく」「馴染みやすく」をコンセプトに、本県の学校や教育現場において、子どもたちがいきいきと元気に学ぶ姿や活躍の場面、学校の先進的・意欲的な取組、特色ある教育施策等に係る動画を制作し、高知県の教育の魅力を多くの方々に発信していきたいと考えています。

